

◇法人（事業所）理念

中・高生を対象とし思春期の多感な時期の「本人が困っていること」に着目し、一人ひとりの苦手な課題に寄り添い、より具体的な将来に向けた自立支援と進路決定支援を行う。

◇支援方針

1. 学校でもなく、自宅でもない新しい自分を見つけ出す。
2. 将来の可能性を広げ、自立に向けたスキルを身に付ける。
3. 自分の特性を理解し、将来の目標の選択肢を見つけ出すことが出来る。

◇営業時間

平日：10時から19時まで

学休日：9時から18時まで

PLUSONE の支援内容

◇本人支援

1 健康と生活

心身の健康や生活に関する領域

1. 「困っていること」「わからないこと」「できないこと」を相談できる対人関係を一緒に作る。
2. 「のめりこみやすさ」「不安」「スマホ依存症」などのSOS発信時の適切な対応をする。

2 運動・感覚

運動や感覚に関する領域

1. 公共交通機関や、自転車を利用した自主来所を推奨し自ら行動できる社会体験を促す。
2. 目や耳に入る情報を少なくする。（聴覚過敏・視覚過敏に配慮し、自分用のPCとイヤホンの使用・移動可能な個人機の設置・教室には無駄な掲示はしない。）
3. 時間の可視化（来所時にスケジュールを決めて表記する）を行う。

3 認知・行動

認知と行動に関する領域

1. 学校生活の困りごと解決に向けた聞きとり（特に学習活動・対人的な悩み）を行う。
2. 分からないままにしていた学習の躓きの再学習（学習教材さららの利用）を自分のペースでできるように支援する。
3. 定期試験の到達目標と計画づくりのサポートを行う。
4. 授業中に困らない予習復習のサポートを行う。

4 言語・コミュニケーション

言語・コミュニケーションの獲得に関する領域

1. ゲーム大会やプロ講師による体験授業を利用したソーシャルスキルトレーニングを行う。
2. スムーズな会話の流れを意識する（ゆっくり、短く、正確に）遠回しな曖昧な表現はしない。

5 人間関係・社会性

人との関わりに関する領域

1. プロ講師（声優、マンガ・イラスト、ネイル、プログラミング、調理）による体験授業に参加し得意を生かした就労のイメージを体験する。
2. 特性を自分なりに理解して自身の強みとし、集団での立ち位置が発見できるように様々なことにチャレンジする機会を提供する。

◇家族支援

1. 関連機関の講演会・説明会などの紹介をする。
2. 個々に応じた多岐にわたる進路決定の道があることを具体的に提案する。

◇移行支援

安定した就労に備えて高知職業安定所との連携をおこなう。

◇地域支援・地域連携

1. 各地域の障がい相談センターとの連携をする。
2. 不登校支援として、スクールソーシャルワーカー、学年主任、担任、養護教諭との連携を行う。

◇職員の質の向上

定期的な研修を行う。

◇主な行事等

1. 季節の行事を開催し親睦を深める。
2. 進学進級お祝い会など節目ごとのお楽しみ会を開催する。